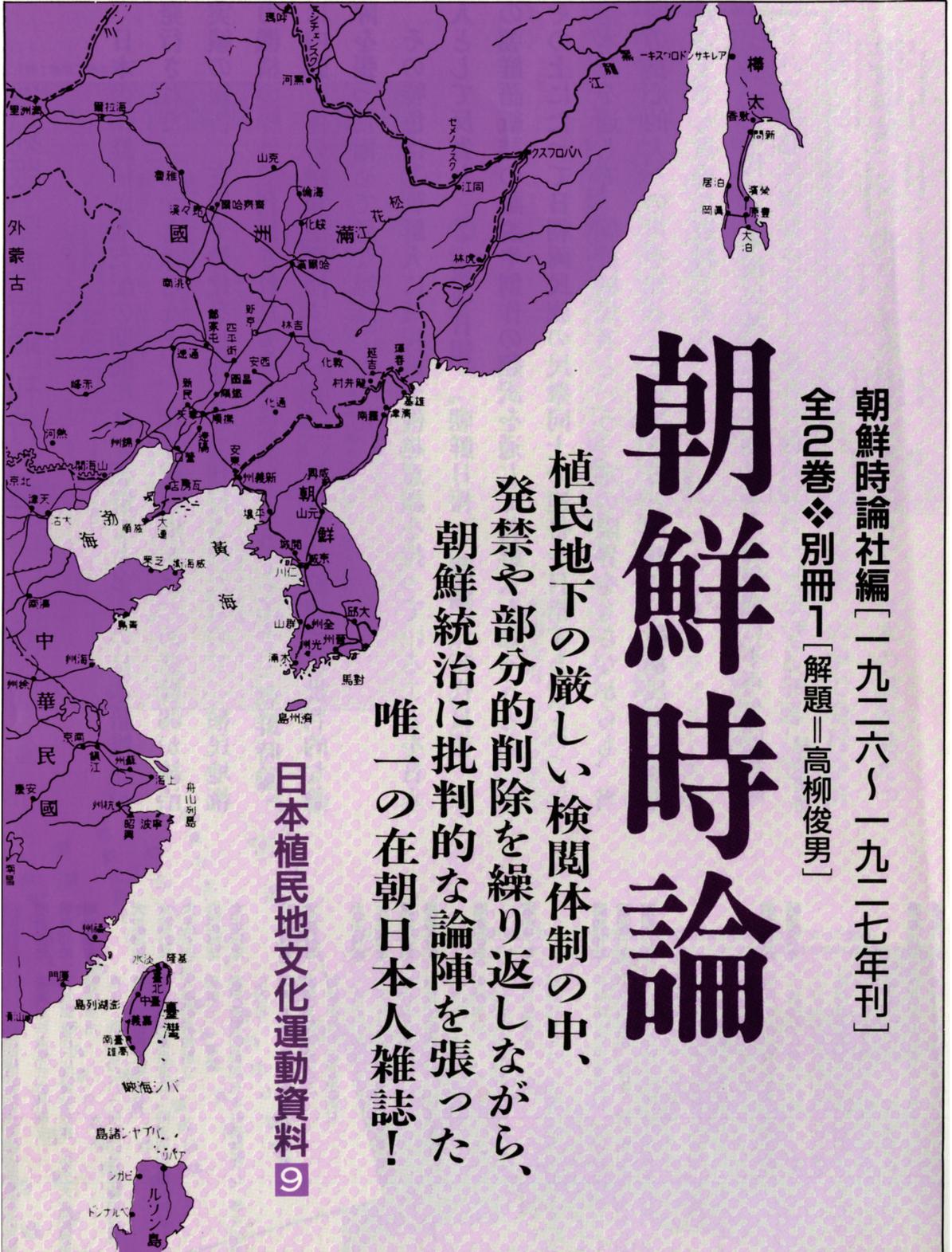


復刻版



朝鮮時論社編「一九二六〜一九二七年刊」
 全2巻◆別冊1「解題―高柳俊男」

朝鮮時論

植民地下の厳しい検閲体制の中、
 発禁や部分的削除を繰り返しながら、
 朝鮮統治に批判的な論陣を張った
 唯一の在朝日本人雑誌！

日本植民地文化運動資料 9

緑蔭書房

復刻版『朝鮮時論』刊行の辞

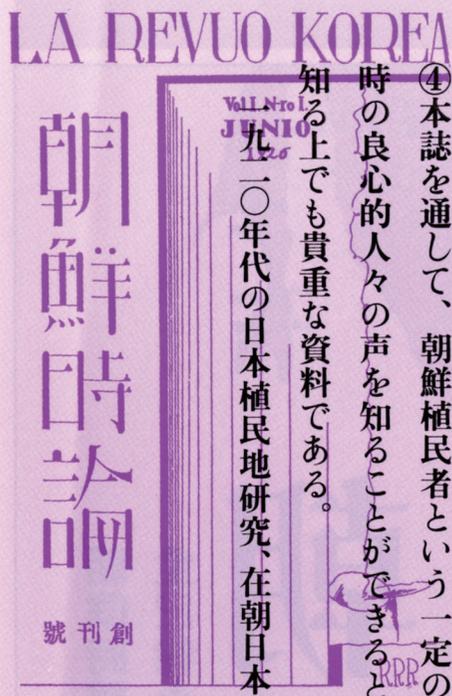
日本の朝鮮植民地支配の期間には、朝鮮でも多くの日本語雑誌が発行された。しかしほとんどが、朝鮮総督府をはじめ諸機関が統治実績の報告、宣伝や教化を目的として刊行されたもので、植民地権力機構の枠外で刊行されたものではない。そうした中で、『朝鮮時論』は内鮮一体の融和を標榜する一九二〇年代の朝鮮統治に批判的な論陣を張った極めて稀な雑誌であった。

その特色は①朝鮮人に蔑視観や優越意識を持っていることを日本人として反省し、②『東亜日報』『朝鮮日報』『開闢』『時代日報』等の朝鮮語紙誌の論説や創作の翻訳を通じて朝鮮人を知ろうとし、③その上にたって日朝両民族の民衆同士の連帯を目指すものであった。

④本誌を通して、朝鮮植民者という一定の限界をもちながらも、当時の良心的人々の声を知ることができると同時に一般植民者の姿を知る上でも貴重な資料である。

一九一〇年代の日本植民地研究、在朝日本人史研究に不可欠の雑誌。

一九九六年一月 緑蔭書房



「日本植民地文化運動資料」関係年譜

- 明治39年 南満洲鉄道株式会社創立
- 明治40年 満鉄調査部に図書室設置（後の大連図書館）
- 明治43年 韓国併合
 - 奉天、長春など八ヶ所に図書閲覧場設置
- 大正3年 第一次世界大戦勃発
- 大正5年 南満洲司書会成立、南満洲司書会雑誌、創刊
- 大正7年 大連図書館創立
- 大正9年 朝鮮三一運動
 - 奉天簡易図書館を本社直営とし、奉天図書館に改称
- 大正11年 衛藤利夫、奉天図書館長に就任
- 大正12年 哈爾濱図書館設立
- 大正14年 『書香』創刊
- 大正15年 『朝鮮時論』創刊→昭和2年
- 昭和3年 張作霖爆殺
- 昭和4年 満鉄図書館業務研究会開始
- 昭和6年 『書香』復刊→19年休刊
- 昭和7年 満洲事変
 - 上海自然科学研究所設立
- 昭和7年 満洲国建国
- 昭和10年 満洲国協和会（のち「満洲帝国協和会」）設立
- 昭和10年 朝鮮総督府図書館報『文献報国』創刊→19年廃刊
- 昭和11年 奉天図書館『収書月報』創刊→18年休刊
- 昭和12年 『中国文化情報』創刊→16年終刊
 - 日中戦争始まる（7月）
 - 満鉄附属地の行政権を満洲国に移譲
 - 『図書館新報』第1次創刊、17号より『満洲読書新報』と改題
 - 国民精神総動員朝鮮聯盟創設
 - 大調査部体制となる
 - 『協和運動』創刊→20年終刊
 - 哈爾濱図書館『北窓』創刊→19年休刊
- 昭和13年 国民精神総動員朝鮮聯盟創設
- 昭和14年 大調査部体制となる
- 昭和16年 満洲国図書館協会発足
- 昭和17年 満鉄調査部事件
- 昭和20年 日本敗戦

植民地支配下の 在朝日本人研究に 貴重な雑誌

水野直樹

(京都大学人文科学研究所助教授)

植民地支配下の朝鮮に住む日本人、つまり「在朝日本人」と呼ばれる人々は、一般には支配者・植民者という地位にあつた。彼らが朝鮮人や朝鮮の文化・社会に対してどのような考えを持ち、どのような態度で臨んでいたのか。これについてはすでにある程度の研究がなされている。しかし、朝鮮人・朝鮮文化を理解しようと努め、それをその時点で雑誌などの公開された形であらわそうとした在朝日本人あるいはグループに関しては、ほとんど知られてもいないし、まして研究はなされていない。そもそもそのような存在自体がごくわずかに過ぎなかつたといえる。

『朝鮮時論』は、在朝日本人の手で出された雑誌としてはまさに異彩をはなつものである。植民地政策に対する批判、朝鮮新聞の社説や朝鮮文学の翻訳紹介、労働者などの社会状況の調査報告など、当時としては異色の記事・論説が掲載されている。

二〇年ほど前、朝鮮民族運動史の研究のため、『朝鮮時論』第二号に掲載された「朝鮮社会運動の人々」を見ると、この雑誌を国会図書館で閲覧した。その時、その内容におどろいたことをいまも覚えていいる。

もちろん、綱領に掲げられた「民衆を基調とせる両民族の共栄提唱」という言葉に、「日鮮融和」を感じることもできる。植民者の文化運動の制約・限界が、そこに表

(第1巻第3号より)

(第1巻第2号より)

朝鮮社会運動の人々

(一九二六・六・一現在。順序不同)

エル、エツチ生

——(々人の動運會社朝鮮朝)——

[57]

[26]

——(化文と治政制專)——

徐廷禧
小作運動とはどちらが先だつたか知らないが、兎角、今日の勢を以て大ならしめたのは、實に氏に負ふ所であつた。千四百万の農民を存亡つて雄々しく、血闘り、席の要する暇もない程の活躍ぶり、血闘りの若者も尚及ばざる如く實に見上げたものである。光州労働共済會は元より、晋州の慶南社会運動者大会に出掛けては、兩朝鮮同盟を打ち上げ、大部にその大会を聞きしもの一氣に京城に於いて、朝鮮労働者同盟をのする手段は、裕に氏を物語る得るものである。生來の結核、瀕死よく農民として暮はしめ、閉けつばなしの質がよく若い者をして懐かしめる。行くとして、可ならざるなきまで、顔が知れ渡つてゐる。人が併り過ぎてゐる。マルクス博士の蘭精海を到る所に脱く、舊北風會委員、労働委員、新報州事件にかつて七ヶ月やられて二回だけの期間に呼ばれ、五

月保釋されて長沙洞に發禁中、五十の分別監り労働運動の第一人者尙尙來を〇すること〇であらばならぬ。
労働共済會以来、七八狼藉、臥病常申伯爾、よく志操を守つてきたのは氏である。波瀾重疊劇的レーンの主人公として好く問題にされたが、じつと辛棒して来たのは共に感服の他ない、無産者同志會が無産者同盟に變り、新思想研究會が労働會に變り、労働共済會が労働聯盟になり更にそれが労働者同盟に組織されて、往年の苦勞が酬られる時分に計らずも、李雲、鄭在道と共にやられて九ヶ月、脚が啞れて出てからは、當時の労働會の幹部と政界を異にしたが、田舎落ちをせなければならなかつた、今は感無言々、山と親み、鳥と語るそれこそ「耕夫」になりし由、氏の田舎落ちをやられた原因を知る私には、實に感無言涙を吞まざるを得ない、氏知

諺文紙論説紹介

專制政治と文化

六月十五日(七月)東報日報社説欄

國家生活と云ふものは社會生活の進行中に發生せるものであるが、社會生活とは其の系統を異にしてゐる。即ち社會生活は其の本質が經濟生活の交易關係に置いてあるが、國家生活なるものは征服事實より生ずる支配關係にあるのである。しかるが故に社會生活に於ては必ずしも階級の重複を意味し、ざるものがあるが、國家生活はこれを異り必ず支配階級と被支配階級の二存在が必然的にその内容を成して居る。何れの時代にても、國家生活は權力が必要であるだけ社會生活とは異なるのである。

故に同一な文化であつても、權力を中心とせる國家生活の特質より發生且成熟せる文化と社會生活の特質より發生成熟せる文化とは其の本質に於て區別されるのである。前者即ち國家生活より起れる文化を階級文化と云ひ、その名稱から區別することが出来るのである。

元來單に文化といふても其の種類と性質を分別せんことを、は色々の複雑にして繁雑なるを免れなからうが、大體から見た

文化なるものは其れを利用して多數人の生活の内容を豊富にし形式を潤澤ならしむることの出来るものならば、此れは文化と云ふべきである。

文化の目的は何時ともその文化を所持せる民衆の生活を向上發展せしむるにあるのである。併し在來の文化なるものは大部分階級文化即ち國家生活と云ふ支配關係にある權力階級の生活より興りしものなるが故に、共同生活體に屬する人員全部の生活の向上と發達の爲め複雑な成長したものでない。さればその大部分は多數の下層民衆の生活とは何等の交渉なく、只だ一部支配階級、有閑階級の頭腦と手足に依り作り出されたものである。其れが爲め一般民衆の生活に有用なるものも少くない。反面、反つて有害無益なものもある。茲に於て文化々々云ふもの、其の性質と時代性によりて其の利害を判断する必要があるのである。

併し文化の社會的困難なるものは頗る複雑多端なるが故、其の發生學的由來を考察すれば餘りに範圍の廣大なるものである。即ち文化が發生し發達して來た其の経路は餘程社會性に豊富である。文化が斯の如く社會性に豊富なるに反しその文化を利用

れていることも事実であろう。にもかかわらず、今日の私たちがこの雑誌から知りうることは、学ばねばならないことは多いのではないか。

日本植民地文化運動資料シリーズにふさわしい『朝鮮時論』の復刻を歓迎したい。

良心的な在朝日本人 青年達の記録

牛口順一 (朝鮮史研究者)

『朝鮮時論』は、一九二六年六月から一年あまり刊行されたにすぎない。購読部数も一千部に満たず、決して大きな影響力を持った雑誌ではなかった。「より良き日本人たらんこと」を通して「日鮮両民族の繁栄と共同幸福」を目的にかかげたこの雑誌は、一見すると当時はやりの内鮮融和論を展開しているかに思われるが、詳細に読んでいくと、当時の日本人の雑誌としては、かなり異色のものであることがわかる。

中西伊之助をして「日本人の不名誉を救った」と言わしめた『朝鮮時論』は、植民地朝鮮にあつて、植民者としての居ごちの悪さを感じとり、それを出発点に、民族的優越感の壁を破ろうと試みた朝鮮在住の日本人青年達の記録である。

植民地支配を直視することが「自虐的」「屈辱的」であるかの如き論潮が、息を吹き返しつつある今、本誌の復刻は時機を得たものと言えるのではなからうか。

(第1巻第1号より)

(第2巻第3号より)



西部京城に於ける 工場労働者の調査

—痛しき女工の哀話—

大山超洋

格別理窟をつけなくとも京城が朝鮮第一の都市であることは誰でも知つてゐる。

年々朝鮮街が寂れていつてその跡に鮮薄な化粧屋が文化の代表者然として坐り込む。

この點で我々が進み去つたら軒並つらねた朝鮮街の存在はこの大京市から消え失せて了うことであらう。

自働車の数は月々に増えてゆく。表通りの大道は間断なく修理されて立派になつてゆく。

夜は驟然としてカフェー麻雀賭博の都としての賑やかな京城が展開される。併し一歩足を更通りに踏み入れたらばこれほど負しい、醜惡な、危険なそして陰鬱な感じを與へる都市がまたあらうか。



亡靈の亂舞

李益相

「うむ、墓守の家は、彼處だなり」

ミ、昌深は呟いた。そして新しい園道から弓なりの山の間に見える松林の間に、隠見するT村へ行く路へミ進入つて行つた

松林と園道の間には、大蛇のやうにうねつた土手が横はつて、その上には細い徑が糸筋ほゞに見えて居た。土手を狭んで壁かに水を流へた水田は、鏡のやうに光つて見えた。初春の日も殆んど黄昏れて、土手の上を悄然と歩いて行く昌深の影は、薄暗い水の面に長く横はつて居た。彼は、その影を眺めて發作的に呟いた。

「俺が今何をしやうとして居るか、彼の影がよく知つて居るに違ひない、最初から俺の後に隨いて来たのも、彼の影計りだ。併し、俺が墓を掘つて墓泥呼ばりをされる時には、あの影すら俺から離れて了うだらう！併しそれでいいんだ！影何んかさうなつたつてかまうものか？例ひ明日の日から此の體が、全部なくならう！明日のこゝを一體誰れが知るものか？」

彼は七八里もある遠い途を横目も振らずに呟いた。そして突然今自分の目の前に目的地が現はれるミ、今まで緊張し切つた體も忽ちがつりミ力が抜けて来るやうに思はれた。覆れ切つた兩脚は、腕の重さに壓つぶれて、繩のやうによれ／＼にもつれる

○偉大なる凡人…………… 田 勇 (三)

多産か？ 闘争か？
マルキシズム論者の爲にゴロ主義者の送論を排す…………… 田 勇 (三)

○見たり聞いたり
愚かなる英國の對支態度…………… パートランドラッセル (三)

痛ましき女工の哀話
西部京城に於ける工場労働者の調査…………… 大山 超洋 (二)

時評 階級闘争の激大性
片断 英、外米關稅を撤廢せよ
高毅的の論議と上京道…………… 津田 龍彦 (二)

○十三 德…………… 救世堂生 (二)

再び現行穀物検査
規則の改正を促す…………… 金 秀 蘭 (二)

朝鮮女學生の眼に映じたる
社會と家庭の改善問題
○先づ婦人の覺醒から…………… 張 誠 實 (二)

○衣食住の改良…………… 安 齋 影 (二)

○人間をつくれ…………… 金 英 淑 (二)

○或る教師への手紙…………… 神 野 迷 羊 (二)

前哨 〇風一匹…………… 大山 超洋 (二)

時論式朝鮮誤辭典
味な朝鮮語…………… 横 山 保 (二)

〇老松畫屋句抄…………… 日 野 軍 城 (二)

〇諺文新聞社紹介…………… (支)

女子労働學園の設立について…………… (支)

無料理髮運動について…………… (支)

朝鮮紳士録刊行…………… (支)

『朝鮮時論』の特色とその内容

● 毎回巻頭を飾った津田勇三の詳細な朝鮮經濟の論文(「朝鮮經濟界の鳥瞰図」として連載)及び一九二七年になつて多く現れる鉞夫や女工の慘状を暴露したルポは圧巻。
● 朝鮮人の意見に耳を傾けることの重要性を説いて、毎回「東亜日報」「朝鮮日報」「時代日報」や「開關」「文芸運動」などの朝鮮語紙誌から社説・論説・文学作品等の翻訳(「諺文新聞社説翻譯紹介」他)は本誌の最大の特徴。
● 民衆レベルでの差別的言動を糾弾する論稿・寸評(「眉のひそむ話」「無題録」など)。
● その他「朝鮮社会相(時事日誌)」「前哨線」「時事片々」「大衆の為に」など。

朝鮮現行稅制の解剖
「我等が社會政策」の黎明…………… 津田 勇三 (二)

階級的に見たる價格論…………… 行島 文男 (三)

諺文新聞社説翻譯紹介…………… (三)

思想筆壇 机邊漫筆…………… シュミット (三)

感想 白救への経路…………… 行島 文男 (三)

ガムガム…………… 放浪漫筆 (三)

ふり上げた拳…………… 朝光 黎民 (三)

動中靜…………… 大山 超洋 (三)

所謂内鮮融和運動批判…………… (三)

前哨 空山落木…………… 趙 洋 生 (三)

詩 一九二六年の無題詩…………… シュミット (三)

創作 飢餓と殺戮…………… 崔 曙 海 (三)

及 黑薔薇の歌…………… 玄 鎮 健 (三)

作 E H O 欄…………… (三)

朝鮮社會相…………… (三)

朝鮮時論…………… (三)

植民地満洲の学術・出版の実相を克明に記録、昭和激動期の文化状況を伝える綜合書評誌／

1 書香

本誌の内容は、大連を含め各満鉄図書館の活動の記録、満洲の出版界の動向、北アジア大陸の諸文化、関東軍の動向に関連した情報、各種の文献目録等多岐にわたる。満鉄図書館史はもとより、満洲史、中国史、軍閥係史、アジア史研究にとつて資料の宝庫。

全8巻・別冊1／満鉄大連図書館編
大正14年4月～昭和19年12月、全158冊
解題 稲村徹元 揃定価144,200円

満洲文芸、北方文化に関する貴重な記事・作品、文献・資料の紹介に努めた綜合文化誌／

2 北窓

満洲学芸史研究上、重要な意味を持つ本誌は、満鉄傘下の「図書館報」の枠を超え、在満邦人の知的要求に応えた高級でモダンな綜合文化雑誌であった。その内容は歴史・民俗・芸術・教育・出版・書評など、満洲における文化事業全般に広く及ぶ。

全5巻・別冊1／満鉄哈爾濱図書館編
昭和14年5月～昭和19年3月、全26冊
解題 西原和海 揃定価82,400円

満洲史、清朝史、対露交渉史など質の高い研究論文を多数所収。東北アジア史研究に必須／

3 収書月報

本誌の特色と内容は、何よりも館長衛藤利夫の個性と情熱によって収集された満蒙・シベリア等辺境研究図書に表われている。質量ともに充実したこれら資料を駆使した多数の研究論文や書籍、雑誌解題や紹介は、東北アジア史研究に必須の基礎資料。

全8巻・別冊1／満鉄奉天図書館編
昭和11年2月～昭和16年10月、全91冊
解題 小黒浩司 揃定価175,000円

満洲文化の向上を企図して刊行した唯一の読書雑誌／

4 満洲讀書新報

本誌は満洲における読書文化の発展に貢献することを使命とし、満洲の文化人に発言・寄稿の場を広く提供した。その紙面は満洲の出版界・読書界・図書館界の動向はもとより、随筆、書評、書誌、読書論、古本趣味、図書紹介等極めて多彩で、興味は尽きない。

全2巻・別冊1／満洲讀書同好会編
昭和11年1月～昭和20年4月、全95冊
解題 西原和海 揃定価41,200円

日本植民地最大にして戦前では日本最大の図書館報。待望の完全復刻版／

5 文獻報國

本誌は、日本植民地最大の社会教育施設の機関誌として、また文献保存及び重要社会政策であった民衆の教化・皇民化を目的として大きな役割を担った。その紙面からは随所に植民地政策が読みとれる。「侵略と文化」を考へる上で欠かせない原資料である。

全12巻・別冊1／朝鮮總督府図書館編
昭和10年10月～昭和19年12月、全102冊
解題 藤田豊 揃定価247,200円

日中戦争期の中国研究に欠けていた学術・文化史的側面の資料を埋める貴重な記録／

6 中國文化情報

本誌は日中戦争下の日本の对中国文化活動の状況、蒋介石重慶政権下・日本の傀儡政権下の教育動向、社会科学の動向や中国文藝界の動向を知る貴重な資料を収録。近現代中国の教育史、科学史、日中関係史、植民地研究に不可欠の学術情報誌。

全6巻・別冊1／上海自然科学研究所編
昭和12年5月～昭和16年12月、全31冊
解題 阿部洋 揃定価111,240円

日本帝国主義による「満洲国」支配の実態と「協和会」の全容解明に久しく待たれた第一級史料／

7 協和運動

協和会の活動は「満洲国の国策に沿って、民衆の思想教化を中心に、経済をも含めたあらゆる分野で展開された。そしてこのような協和会の全貌を余すことなく反映しているのが、「協和運動」である。本誌により、戦時体制下の「満洲国」をつぶさに見ることが出来る。

全20巻・別冊1／満洲帝国協和会編
昭和14年6月～昭和20年4月、全68冊
解題 風間秀人 揃定価412,000円

朝鮮における皇民化・内鮮一体を促進し、總督府の文化統治政策を担った聯盟の機関誌／

8 總動員

本誌は聯盟員相互の意思疎通を図り、教化運動の徹底を期すために刊行された機関誌。戦時下の朝鮮における皇民化政策の具体的施策と実態を知る基本資料。また、日本の戦時動員政策の全体像の解明にも必須の文献である。

全4巻・別冊1／国民精神總動員朝鮮聯盟編
昭和14年6月～昭和15年12月、全19冊
解題 宮田節子 揃定価74,160円



日本植民地文化運動資料 9

朝鮮時論社編「大正15年〜昭和2年刊」

朝鮮時論

全2巻
別冊1

高柳俊男 解説(別冊に所収)

A5判・上製クロス装・ケース入・総1,064頁

定価39,140円(本体38,000円)

ISBN4-89774-016-9 C3030 P39140E

『朝鮮時論』は一九二六年六月の創刊号から翌年十月号まで、途中に合併号・休刊をはさんで十三冊までの刊行が確認されている。このうち、一九二六年十月号及び初めて発禁となった十一月号と一九二七年十月号の原本が不明のため、本復刻版ではこの三冊を欠号とした。

朝鮮時論

・藝文・會社・LA REVUE KOREA・濟經・治政・

宇宙に輝やくニウトンの功績 山本一清

岐路に立てる

●淑明女高普盟休事件 社長 大山時雄

關東婦人同盟便り 東京大橋英子

八月號 昭和二年

●鐵原私刑事件、米移出増加を見て、
滿洲と朝鮮人

●勅中靜 ●前哨線 ●塹壕

文藝欄 日野軍機・山田弘史・高橋光一・古市金吾
大口謙夫・十津宮實・高橋第一・原田金吾

定價 五十錢

行發社論時鮮朝城京

綠蔭書房

東京都板橋区板橋 1-13-1

☎03(3579)5444

*表示価格は税込です

関連図書のご案内

〈京大大学人文科学研究所の共同研究成果報告書〉

近代日本のアジア認識

古屋哲夫編/A5判・上製クロス装/定価18,540円

〈関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料③〉

朝鮮人虐殺に関する知識人の反応

琴葉洞編・解説/全2巻・揃定価41,200円

〈石炭産業内部文書〉

戦時下強制連行極秘資料集

長澤秀編・解説/全4巻・揃定価82,400円

〔東日本篇〕

〈石炭統制会極秘文書〉

戦時下朝鮮人強制連行資料集

長澤秀編・解説/全4巻・揃定価82,400円

〈在日朝鮮人統制と皇民化政策の実態史料〉

増補 協和会関係資料集 全5巻

樋口雄一編・解説/A5判・上製クロス装/揃定価92,700円

戦時下の精動の動向を記録した機関紙全号の完全復刻版!

国民精神総動員 全2巻

国民精神総動員中央連盟機関紙/B4判・上製/揃定価67,980円

明治前期の主要新聞15紙に掲載された朝鮮に関する社説を所収!

資料新聞社説に見る朝鮮

——征韓論と日清戦争——

全6巻/別冊1

編集委員 北原スミ子・國部裕之・趙景達・長谷川直子・吉野誠
※別冊に『朝鮮関係社説目録』を付す/揃定価154,500円

特約店